

## <小学部（低学年）>

### 1 概要

小学部低学年は、1年生18名、2年生19名、3年生7名の計44名の児童が在籍しており、通学生は41名、施設生は3名となっている。児童の障害の状況としては、知的障害を伴う自閉スペクトラム症・脳性まひ・ダウン症などであり、中でも自閉スペクトラム症の占める割合が高くなっている。また、生活年齢の幼さや障害上の理由から環境や場面の変化に対応する力が弱い児童など、教師との手厚い関わりや様々な配慮が必要な児童が在籍している。

### 2 教育方針

低学年は、学校生活の入門期であり、新しい集団の中で学習にじっくりと取り組みながら、就学前でつけた力をさらに成長させて、これからの学校生活の“土台づくり”をする時期である。また、成長していく上で必要となる、人との信頼関係を育む大切な時期でもある。そのためには、まずは生理的基盤を整え、生活リズムを安定させることが大切である。人や物に向かえるよう健康面や日常生活面の指導を丁寧におこない、その上で身体を使った楽しい活動を教師と一緒にたっぷりとおこなう中で、自分の思いがしっかり受け止められているという実感を積み重ねたい。また、自分の周りで起きていることに関心を高め、自分から関わろうとする意欲を高めていく。そして、教師との安心できる関係をつくり、その働きかけを受け止めたり、少し苦手なことにも一緒に向かえるような信頼関係を築いていく。このような人との関係を基礎として、コミュニケーションをする力を養い、世界を拓けながら、豊かに生きる力につなげていくことを大切に取り組んでいる。

### 3 教育目標

◎教師と安心できる信頼関係をつくり、人との関わりを通して生きる力の基礎を養う。

- (1) 生理的基盤や生活リズムを整え、健康な身体をつくる。  
基本的な生活習慣を身につける。
- (2) 身体を使って活動する中で、楽しさや喜びをたくさん味わう。  
活動や素材に気持ちを向けて、たっぷりと身体を使う。
- (3) 周りのものごとへの気持ちをふくらませ、活動を通じて理解を深め、自分からの関わりを広げる。
- (4) 教師への安心感や信頼感を基に、やりとりの中で思いを豊かにする。

### 4 学部のスローガン

「げんき いっぱい エイエイオー」

### 5 教育課程の特色

基礎学級は一人ひとりの実態に即した効果的な指導が行えるように、教育課題別の集団編成である。集団編成の観点としては、対人面の力や認識面の課題を中心とし、障害や生活年齢、集団の大きさなども配慮して編成している。基本的にほぼ学級ごとに「日常生活の指導」や「自立活動」、課題別の学習などに取り組んでいる。課題別の学習では、「生活（せいかつ）」「国語・算数（みる・きく・はなす）」「音楽（おんがく）」「図画工作（ふれる・えがく・つくる）」「体育（うんどう）」を午前中に取り組んでいる。午後は遊びの指導（自由遊びや設定遊び）や少人数での学習を行うなど、それぞれの児童の実態に応じて柔軟な対応をしている。午後からの活動は合同で行っているものもあるが、一日を安定して過ごせるようほぼ同じ集団で過ごし、日課も児童自身が次の活動に向かうための自由あそびの時間を保障するとともに、わかりやすくゆったりとした流れを設定している。

## 小学部低学年 教育課程表(令和5年度)

種 別	知単／知重／肢・重	肢・単	肢・単	肢・単	
	部・学年	小学部低学年 1・2・3年	小学1年* (準ずる教育課程)	小学2年* (準ずる教育課程)	小学3年* (準ずる教育課程)
各教科科目等各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	12			
	遊びの指導	5			
各教科	生活	1	3	3	
	国語	0.5	9	9	7
	社会				2
	算数	0.5	4	5	5
	理科				2.6
	音楽	1	2	2	1.7
	図画工作	1	2	2	1.7
	体育	1	2	2	2
	家庭				
道徳	特別の教科道徳	(*)	1	1	1
特別活動	学級活動 児童会活動	1	1	1	1
外国語活動					1
自立活動	自立活動	5	1	1	1
総合的な学習の時間					2
週 合 計		28	25	26	28
教育課程構造図	別紙参照				

\*「特別の教科 道徳」は、「日常生活の指導」の中で取り扱う。